

大乘現証について

徳 重 弘 志

1. はじめに

中期密教の主要經典の一つである『真実摂経』（『初会金剛頂経』）には、その漢訳の経題に「大乘現証」（mahāyānābhisamaya）という用語が用いられている。この用語は、『真実摂経』だけではなく、『百五十頌般若経』や『理趣広経』においても金剛薩埵と関係する箇所にも用いられていると指摘されている。しかしながら、この用語については、まだ十分に研究が行われてはいない。

本稿では、この用語が用いられている文献と、それらの文献におけるこの用語の特徴について考察した結果を報告したい。

2. 「大乘現証」が用いられている資料

「大乘現証」という用語は、管見のおよぶ限りでは、10 種類の資料に用いられている。以下に、それらの資料を列挙しておこう¹⁾。なお、梵蔵漢資料が揃っている文献や、複数の異訳が存在する資料については、同一の分類番号を付した。

〈梵文資料〉①『真実摂経』（堀内 1974, 1983）②『百五十頌般若経』（苦米地 2009）

〈蔵訳資料〉①『真実摂経』（北京 No.112）②『百五十頌般若経』（北京 No.121）
③『理趣広経』（北京 Nos.119-120）④『金剛場莊嚴タントラ』（北京 No.123）⑤
『大日経』（北京 No.126）

〈漢訳資料〉①金剛智訳『略出念誦経』（大正 No.866）²⁾ ①不空訳『真実摂経』（大正 No.865）①施護訳『真実摂経』（大正 No.882）②不空訳『般若理趣経』（大正 No.243）③法賢訳『理趣広経』（大正 No.244）④施護訳『金剛場莊嚴般若一分』（大正 No.886）⑤善無畏、一行訳『大日経』（大正 No.848）⑥不空訳『十八会指帰』（大正 No.869）⑦不空訳『二卷教王経』（大正 No.874）⑧施護訳『秘密三昧経』（大正 No.883）⑨施護訳『秘密相経』（大正 No.884）⑩不空訳『五

秘密儀軌』（大正 No.1125）

3. 金剛薩埵と関係する「大乘現証」の用例

管見のおよぶ限りでは、「大乘現証」という用語が金剛薩埵と関係する箇所用いられているのは、①『真実摂経』、②『百五十頌般若経』、③『理趣広経』、④『金剛場莊嚴タントラ』、⑤『大日経』、⑧『秘密三昧経』、⑩『五秘密儀軌』といった7種類の資料においてである。

第一に、『真実摂経』の完本には、「大乘現証」という用語が17例用いられている³⁾。そのうち、金剛薩埵の心呪の名称（§§35, 598）、金剛薩埵出生段における最上の悉地の名称（§42）、金剛薩埵の一印曼荼羅の名称（§599）、金剛薩埵に対する形容語（§2697）として、この用語が用いられている。また、「一切如来の大乘現証」というように、「一切如来」なる形容語を伴う用例が10例⁴⁾存在する。

「一切如来の大乘現証」という用例について、『真実摂経』の逐語釈である Śākyamitra の『コーサラ莊嚴』（北京 No.3326）には、「一切如来の大乘」とは「菩薩の十地」であり、それを「現証する」とは「金剛の如き心によって悟ったこと」とであると記述されている⁵⁾。

第二に、『百五十頌般若経』には、金剛薩埵（金剛手）に対する形容語として、「一切如来の大乘現証の一切曼荼羅を有する者」という用例が1例のみ存在する⁶⁾。また、『理趣広経』「般若分」にも、『百五十頌般若経』との対応箇所に同様の用例が存在する⁷⁾。

該当箇所に関して、『理趣広経』の注釈書である Ānandagarbha の『吉祥最勝本初広釈』（北京 No.3335）には、「一切如来の大乘」とは「菩薩道が結果を伴うこと」であり、その「現証」とは「悟りの理解をすること」であって、一切如来の大乘を現証する者が金剛薩埵であると注釈されている⁸⁾。

第三に、『理趣広経』には、「大乘現証」という用語が「般若分」と「真言分」に1例ずつ用いられている。このうち、「般若分」の用例についてはすでに述べた。他方、「真言分」では、金剛薩埵の印の名称として用例が存在する⁹⁾。

第四に、『金剛場莊嚴タントラ』には、「大乘現証」という用語が5例用いられている。それらのうち、金剛薩埵と関係するのは、金剛薩埵の心呪の名称としての1例のみである¹⁰⁾。なお、本經典における用例は、『真実摂経』における金剛薩埵の心呪の箇所と語句がほぼ共通していることから、『金剛場莊嚴タントラ』が『真実摂経』の記述を取り入れたと推定することができる。また、本經典にも、

「一切如来」なる形容語を伴う用例が2例存在する。

第五に、『大日経』には、「大乘現証」という用語が4例用いられている。それらの用例は、チベット訳にのみ存在する外編 (Uttaratantra) の「如来出生曼荼羅加持品」に集中しており、内編には用例が見られない。また、管見のおよぶ限りでは、『華嚴経』などの大乘經典や、『大日経』の先驅經典である『金剛手灌頂 Tantra』には、「大乘現証」という用語が用いられていないので、この用語は『大日経』外編が初出といえるかもしれない。

『大日経』「如来出生曼荼羅加持品」には、毘盧遮那如来が金剛薩埵 (金剛手) を筆頭とする対告衆に説法を行う場面が記されている。そこでは、金剛薩埵に「大乘現証の法門」が説かれると記されているほか、「大乘現証に住する大菩薩」や「諸菩薩の大乘現証」といった菩薩と関係する用例が見られる¹¹⁾。このうち、「諸菩薩の大乘現証」という「諸菩薩」なる形容語を伴う用例は、「大乘現証」という用語の変遷を理解する上で重要なものと思われる。

第六に、『秘密三昧経』には、「大乘現証」という用語が2例用いられている。そのうち、金剛薩埵と関係するのは、金剛薩埵の心呪の名称としての1例のみである¹²⁾。また、この用例は、「一切如来」なる形容語を伴っている。

第七に、『五秘密儀軌』には、「大乘現証」という用語が2例用いられている。具体的には、百字真言として1例¹³⁾、金剛薩埵の心呪の名称として1例¹⁴⁾用いられている。なお、この文献においては、百字真言の用例も金剛薩埵と関係する箇所用いられている。

4. まとめ

本稿では、「大乘現証」という用語が用いられている資料の特定と、それらの資料における用法の解明を試みた。上記の研究の結果、既に用例の存在が指摘されている『真実摂経』や『百五十頌般若経』以外にも、『大日経』などに「大乘現証」という用語が用いられていることが判明した。また、この用語は、大部分の資料では一切如来という形容語を伴う形で登場するが、『大日経』においてのみ諸菩薩という形容語を伴う形で用いられていることが判明した。

また、『理趣経』類本や『真実摂経』だけではなく、『秘密三昧経』や『五秘密儀軌』においても、「大乘現証」という用語は、一切如来の大乘を現証する者としての金剛薩埵について説かれる箇所に、「金剛薩埵に対する形容語」や「金剛薩埵の心呪の名称」などとして用いられている。このことから、「大乘現証」と

は主に金剛薩埵を象徴する用語として用いられていると推定することができる。

- 1) 紙幅の都合上, いずれも略称または通称を示す. なお, 列挙するのはインド撰述あるいは翻訳文献のみとし, 中国やチベットで撰述された文献は第二次資料として扱う. また, 列挙した文献に対する注釈書についても, ここには列記しない. 2) 金剛智訳には, 大正蔵所収の四巻本以外にも, 異訳である六巻本が存在する. なお, 四巻本では「大乘阿毘三摩耶」, 六巻本では「大乘阿毘三摩地」といった訳語が用いられている. 3) §§ 35, 42, 201, 212, 225, 318, 417, 492, 561, 598, 599, 617, 1894, 2697, 2715 と, 施護訳の経題および奥書 (大正 No.882, p.445b3-4) に用例が存在する. なお, 施護訳には各品と各章の末尾に共通する偈頌に「大乘現証」という用語が10例用いられているが, 対応箇所が梵本では mahāyānābhisamgraha と表記されていることから, それらについては「大乘現証」の用例として扱わないことにする. 4) §§ 35, 212, 318, 417, 492, 561, 598, 617, 2697, 2715. 5) 『中華大蔵経』(テンギュル), vol.28, pp.65-66. 6) [苦米地 2009: pp.9, 39]. なお, [苦米地 2009] の Diplomatic Transcription と, 『理趣広経』における対応箇所のチベット訳を根拠として, 本稿では sarvatathāgata-mahāyānābhisamaya-sarvamaṇḍalāḥ という読みを採用した. 7) 北京 No.119, 155a6-7; 中華大蔵経 (カンギュル), vol.85, p.450. 8) 『中華大蔵経』(テンギュル), vol.30, p.196. 9) 北京 No.119, 267b4-5; 中華大蔵経 (カンギュル), vol.85, p.720. 10) 北京 No.123, 58a6; 中華大蔵経 (カンギュル), vol.86, p.138. 11) 北京 No.126, 216a3-6, 221b6; 中華大蔵経 (カンギュル), vol.86, pp.673-674, 686. 12) 大正 No.883, p.446b4. 13) 大正 No.1125, p.538a6-7. 14) 大正 No.1125, p.538a17-18.

〈参考文献〉

- 苦米地等流 (Tomabechi, Tōru) 2009 *Adhyardhaśatikā Prajñāpāramitā: Sanskrit and Tibetan texts*, Sanskrit Texts from the Tibetan Autonomous Region No. 5, Beijing: China Tibetology Publishing House / Vienna: Austrian Academy of Sciences Press.
- 堀内寛仁 1974 『梵蔵漢対照 初会金剛頂経の研究 (梵文校訂篇)』(下), 密教文化研究所.
- 堀内寛仁 1983 『梵蔵漢対照 初会金剛頂経の研究 (梵文校訂篇)』(上), 密教文化研究所.

〈キーワード〉 大乘現証, mahāyānābhisamaya, 『金剛頂経』, 『大日経』, 金剛薩埵
(高野山大学密教文化研究所受託研究員)